総務委員会視察報告

平成28年10月14日(月)～16日(水)

群馬県富岡市

富岡製糸場の世界文化遺産登録後の富岡市の取組み状況、及びそれを活かしたまちづくりについての視察研修を行った。

富岡製糸場は、明治5年、明治政府が設立した官営の製糸場で、民営化後も一貫して製糸を行い、製糸技術開発の最先端として国内養蚕・製糸業を世界一の水準に導いた。

世界遺産登録を見据え、数年前から、観光客のための施設整備に力を入れ、社会資本整備総合交付金を活用し、駐車場整備、路面の整備、まちなか交流館の整備、案内誘導サインの整備等を行っている。

また、景観形成助成金制度を設定し、景観形成のために要する費用の一部を助成している。

富岡製糸場の世界文化遺産登録（平成26年6月登録）による経済効果として、見学者の増加による見学料の増加

・見学者
114万4,700人

・見学料
9億6,800万円

・売店売上
2億1,500万円

・空き店舗の解消。25店舗が新たに出店

また、今後の取り組みとして、富岡製糸場を核としたまちづくりや、世界遺産にふさわしいまちとみおかへの取り組みを行う。

今後の課題として、急増する見学者への対応や、駐車場の確保、維持管理、保存整備費の増加による財源の確保が必要になってくるとの説明があった。

南島原市でも2018年の世界遺産登録に向け、平成26年に南島原市世界遺産周辺整備計画が策定されているが、富岡市のように、世界遺産登録を見据えた街づくり計画を策定することが急がれる。

富岡製糸場研修

石川県能美市

能美市は金沢へは、20キロの距離にあり、電車で25分、小松空港までは10分のところに位置し、金沢市への通勤圏であり、人口も増加し、現在5万人を超えている。

能美市は、北陸新幹線が金沢市までの開業により、観光客の増加が見込まれ、それをまちづくりや、観光振興にどのように取り組んでいるか、そして、その効果等についての研修を行った。

観光への取り組みとしては、北陸新幹線金沢駅開業を見据え、今までの観光に対する施策を見直した。また、「能美市観光アクションプラン」を策定し、観光客数の目標をたて、平成30年242万人の目標に対し、平成26年に245万人を達成した。新幹線開業の効果としては、温泉入浴客の増加や関東、東北圏からの観光客が増加したが、今後どう持続させるかが課題とのことであった。

現在、長崎新幹線（九州新幹線西九州ルート）の平成34年開業をめざし、県内関係機関と協力して取り組んでいるが、南島原市の立地は、新幹線の路線から離れているため、長崎新幹線の開業効果がどの程度あるのか、予測が出来ない状況であるが、南島原市の世界遺産登録の構成資産である原城跡に、客をいかに誘致するかが大きな課題である。

能見市研修

国営東京臨海広域防災公園・基幹的広域防災拠点施設

国営東京臨海広域防災公園は、首都直下地震等の大規模な災害発生時に、現地における被災情報の取りまとめや、災害応急対策の調整を行う「災害現地対策本部」等が置かれる防災拠点施設である。

政治経済の中心であり、人口や機能が集積する首都圏で大規模災害が発生すると、甚大な被害が生じることが推測されることから、大災害に備え、首都圏の広域防災拠点と連携しながら、応急復旧活動を行う拠点として整備された施設。

平常時には、関係機関による防災情報の交換や訓練など、発生時に備えた活動や来園者を対象とする体験、学習、訓練が行われる。基幹的広域防災拠点施設は防災施設であり、特徴としては、建物全体を免震装置の上に配置したり、中央防災無線で全省庁及び全都道府県と接続出来る機能を備えている。

阪神淡路大震災をはじめ、昨年は熊本地震が発生するなど、日本においては、大災害がいつ、どこで発生するか分からない状況にある。

平成3年には、43名の尊い命が失われた雲仙普賢岳災害が発生している。

このようなことを教訓に、南島原市においても普段から大災害に対する取り組み、市民への防災意識の普及向上を図ることが重要である。

基幹的広域防災拠点施設研修